

● 助成事業実施報告書

2023 年 3 月 31 日

助成事業実施報告書

団体名 森の学校つくも

代表者・役職名 氏名 代表 十場比路子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

森の学校つくも

2. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度

10年以上放置されていた3000坪ほどの耕作放棄地を開拓し子どもの居場所作りをする。毎週水及び月いち土曜日にフリースクールを開校。昼は子ども食堂を開催する。竹林の竹を切りそれを資材にしてスタードームの建設、農業小屋の整備をし雨天でも活動できるようにする。  
畑、田んぼの整備。米、大豆、黒豆、小豆、白菜、大根、ナス、トマト、きゅうり、かぼちゃ、じゃがいも、玉ねぎなどの栽培、収穫。果樹園のブルーベリー、キウイ、梅、柿、ざくろの収穫。餅つき、みそ作りをする。

3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

\*結果 子どもの居場所及び子ども食堂 2022年4月4日月曜日から2023年3月29日水曜日まで月曜日水曜日及び月1～2回土曜日計105回フリースクール開校。うち子ども食堂開催は32回。参加者数のべ子ども345名。  
\*成果 田畑で種や苗から育てた野菜、米、大豆が育ち皆で収穫、調理していただいた。黒豆で餅つき、大豆で味噌作りも実施。子どもたちと火を起し飯盒炊爨をすることで人間関係がよりよくなった。  
\*効果 不登校で森の学校つくもに来ていた子どもたちが心身共に元気になり地域の学校に再び通い始めたケースがあった。週1森の学校つくもに来て残りの曜日は学校に通い始めた子どももいる。誰でも参加でき何をして過ごしても良いという居場所。そして美味しいごはんがいただける子ども食堂の存在が子どもたちの支えになっていれば幸いである。

4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

森林を開拓して子どもの居場所を作っているため大人の手が更に多く必要である。SNSを見てスタッフに応募してくれる方も増えてきたがこれからも仲間を増やしていきたい。高校生以上のボランティアスタッフも募集する。兵庫県内、関西地区のフリースクールとも連携し、居場所を必要としている子どもたち、親御さんにもSNSまたはチラシで情報を届けていく。  
キャンプができるように炊事場に屋根をつけ真夏、雨天でも対応できるようにする。  
ツリーハウス、ピザ窯を子どもたちと作る。  
田んぼの面積が500坪増えたので自然農法で稲作に取り組む。  
2023年度も飯盒炊爨、畑で採れた収穫物を中心に皆で火を起し、調理していく。  
冬に仕込んだ味噌が熟成していただく日を子どもたちも楽しみにしている。

5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください

